

かがやく花々

平和の子ら

学校法人平和学園
平和学園小学校
2015年度 学校だより 第8号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
Phone 0467-87-1662/0131
Fax 0467-87-0411
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

年間聖句 (2015年度)

子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。
ヨハネの手紙 一 3章18節

ひとりの力

校長 橘 明子

平和学園小学校の歩みの中で、「大切な事柄」を拾い出すといくつみつけることができるでしょうか。ひとつ、ふたつ、みつつ・・・子どもたちの日々の歩みの中には「大切な事柄」がたくさん、たくさん詰まっています。

はじめに思い浮かぶのは学習。1年生から始まる教科の学び、積み重ねていくためには、先生の話に耳を傾けることが大切です。聞く耳を育てることで、考える力にもつながり、自分の意見を伝える力となっていきます。

次に生活習慣。気持ちよく学校生活を送るためには、また友だちと同じ空間で過ごすためにはどうしたらよいのかと考えます。ここに想像の力と、発想の力があると豊かな生活が生み出されるかもしれません。

そして、いつも見えない力で、私たちを守り導いてくださる神さまの存在。神さまはありのままの私たちを認めて下さり、愛してくださいます。だから自分を大切にでき、隣人を赦し、ともに生きる大切さを知ることができます。その結果、誰かのために動き出すことができるようになるのではないのでしょうか。

小学生は豊かな感性と生きていく力と様々な事柄を吸収しようとする力があります。その与えられた力を子どもたちは、自分だけのものではなくみんなの力にして、ともに生きることを選んでいくのです。その姿がたくましく、真の平和を作り出しているのではないのでしょうか。ひとりの持っている力が集まると頼もしく大きな力になることを知っている子どもたちだからこそ、平和学園小学校の行事は子どもたちの力によって生み出されていくのだと思います。

先日の児童礼拝は、近江麻衣子先生が担当でした。「前にノーベル平和賞を受賞したマラウさんのお話をしました。マラウさんと一緒にノーベル平和賞を受賞したのが、今日お話するカイラシュさんです。」と話し始めた近江先生。怒るという感情は、人を幸せにするエネルギーを持っていますと話してくれました。「怒る」と「幸せ」と矛盾するような言葉がどうしてそのようになるのだらうと、聞いていた子どもたちの表情からも伝わってきます。

カイラシュさんは辛く苦しい状況にある子どもたちを見て、「なぜ小さな子どもたちが幸せではないのか」と怒り悲しみました。そしてその感情を自分のエネルギーに変え、幸せへ繋がる発想が生まれました。そして、たくさんの子どもたちを救うことができたのだそうです。「怒る」と「幸せ」がつながっているわけですね。

人とうまくいかないとき、私たちは相手だけを責めてしまうことがあります。でもその時に、仲良くする方法を考えたら自分も幸せな気持ちになれるでしょう。「言葉や口先だけでなく、行いをもって誠実に愛し合う事が小さな平和を積み重ねていく事」と近江先生の話は終わりました。

ひとりの力がとても大切だと改めて考えさせられた一日でした。今学期も半分を過ぎました。みんなが手を取り合い、ともに成長できるように支え合って学校生活を過ごしていきましょう。